



新年あけましておめでとうございます。地域の皆様をはじめ、多くの方のご協力により、トキの放鳥開始から15年目を迎えることができました。心より感謝申し上げます。本年もどうぞよろしくお願ひいたします。

佐渡島内のトキの動き（2022年12月）



世界でトキだけが持つ生態～剥がれた皮膚による羽の着色～

トキの羽は毎年12月下旬ごろから2月頃にかけて徐々に黒くなります。頭や首の皮膚がはがれ粉状になった黒い物質を頭や背中にこすりつけて色を変えており、皮膚による着色を行うことが確認されている鳥は世界でトキだけです。この化粧色は天敵から身(巣)を隠すため、繁殖できることを示すためのものと考えられています。トキならではの行動を観察してみてください。



こすりつけの様子

トピック～冬はどこで何を食べているの？～

先月の第123号ではトラクターのわだちが冬のトキのエサ場になっていることを紹介しました。これから季節、わだちや水田の水が凍結する厳冬期になると水の流れのある場所など、雪が解けていてエサを捕りやすいところを見つけて採餌することも多くなります。こうした冬場はマルタニシやガガンボ類の幼虫、ミミズを多く採餌していることが分かっています。多様な環境の中で、トキはそれぞれの場所にいる生きものを食べて生きているのです。



マルタニシ



ガガンボ類の幼虫



ミミズ

トキの胃内容物の一部

（一昨年1月に死体回収した個体）



ふゆみずたんぼでミミズを採餌



ビオトープの水たまりで採餌



積雪の少ない江で採餌

トピック ~トキ放鳥を行った片野尾~

昨年9月に、かつて日本産トキが生息していた「片野尾地区」の棚田でトキの放鳥を行いました。片野尾での放鳥は2019年以来2回目です。9月の放鳥から3か月ほど経過しましたが、今でもトキたちが片野尾の棚田を訪れているようです。

片野尾ではトキの放鳥が始まる以前の2000年代の初め頃から減農薬米の栽培を開始し、約20年にわたり環境保全型農業を実践・継続しています。当時から島外の都市住民のボランティアを受け入れ、田植え・稲刈り体験、ビオトープ整備を行っています。当時は小学生だった子どもたちが学生や社会人になっても島外からボランティア活動に訪れているそうです。

片野尾の環境・風土そして地域の方々の人柄がトキも人も引きつけているのかもしれません。



トピック ~2022年を振り返って~

トキの放鳥開始から14年が経過した2022年、野生下トキの推定個体数が500羽以上となり、島内ではトキのいる光景が当たり前になりました。しかし、今ある佐渡の景色は決して当たり前のものではなく、日本産トキが生息していた頃からトキ保護にご尽力された方々やその意志を受け継いできた多くの島民の支えがあり成し得たことだと思います。こうした島民の皆様の思いを忘れず、人と自然が共生する社会を次世代に残していくよう、2023年も取り組んでまいります。



2022年、最初に巣立ちを迎えたのは民家の裏の林で育った子どもたちでした。いつも暖かく見守ってくださりありがとうございます。

トキ関連ニュース

12月8日 人・トキの共生の島づくり協議会総会開催

トキの
みがた

- ①トキに近づかず、やさしく静かに見守りましょう。
- ②地域に迷惑をかけないようにしましょう。農地へ無断ではいらないようにしましょう。
- ③車から降りずに観察しましょう。（ただし、通行の妨げにならないようにしましょう）
- ④大きな音や光を出さないようにしましょう。
- ⑤繁殖期（2月～6月）は、巣に近付かないようにしましょう。





もうじき立春ですが、佐渡では厳しい寒さが続いています。

野外ではトキが林内で寒さにじっと耐える様子や、晴れ間を狙ってエサ場に降りる様子が観察されています。

佐渡島内のトキの動き（2023年1月）



トキの求愛行動には「お辞儀」「枝渡し」「羽下げ」「相互羽繕い」「くちばし交差」「擬交尾（ぎこうび）」があります。求愛行動は12月から増加し、2月は相互羽繕い、3月頃になると枝渡しや擬交尾がよく観察されます。

今年の1月には相互羽繕い、枝渡し、擬交尾が確認されています。まだまだ続くトキの求愛行動をぜひ観察してみてください。



相互羽繕い



枝渡し



擬交尾

他個体を羽繕いする。相互に行う場合もある。

気に入った相手に枝や木の皮などを渡す行動。受け取ってもらえないこともある。求愛のほか、攻撃的な意味合いの場合もある。

交尾に似た行動。擬交尾が見られた2羽はペアとなることが多い。ペア外の個体が飛来した際に見せつけることもある。

トピック～2月中旬頃から始まるトキの巣づくり～

2月中旬頃になると主に地上で枝を拾って、営巣林に巣材を運ぶ行動が観察されます。トキは巣材をくわえて長距離を移動することは稀で、林の近くや林内で巣材を拾って巣に持ち帰ることが多いです。また、早朝に巣材を運ぶ傾向があることが分かっています。トキが枝や草などの巣材を運んでいる様子が見られたら、フリーダイヤルまたはトキ目撃情報入力フォームからご連絡ください。



巣材を運ぶトキ

トキ目撃情報フリーダイヤル
0120-980-551

トピック ~トキの繁殖時期と2月の天気~

トキは1月下旬から2月中旬にかけての日照時間が長い年ほど、繁殖を早く開始するようです。また、雨が降ると巣材運びを中断することから、2月～3月に降水量が多いと繁殖が遅れる傾向にあります。

| | 日照時間 (h) | | | 降水量 (mm) | | |
|-------|----------|------|------|----------|------|--------|
| | 平年 | 昨年 | 階級区分 | 平年 | 昨年 | 階級区分 |
| 1月 下旬 | 16.9 | 21.0 | 平年並み | 45.4 | 11.5 | かなり少ない |
| 上旬 | 17.7 | 18.3 | 平年並み | 32.2 | 18.0 | 少ない |
| 2月 中旬 | 23.0 | 21.1 | 平年並み | 34.8 | 61.5 | かなり多い |
| 下旬 | 28.4 | 18.5 | 少ない | 23.8 | 17.0 | 少ない |

平年と昨年の日照時間・降水量の比較（佐渡市相川）

（新潟地方気象台提供）

昨年の2月中旬は雨が多かったようです。実際に2月28日まで巣材運びが確認されず、3月に入ってから慌ただしく巣づくりをしていました。

2月の天気を見て今年のトキの繁殖時期を予想してみても面白いかもしれません。

トキの繁殖期カレンダー



巣材の枝運び



巣材の草運び



抱卵・子育て



巣立ち

巣づくり

産卵・抱卵

ふ化・子育て

巣立ち

2月

3月

4月

5月

6月

7月

トキ関連ニュース

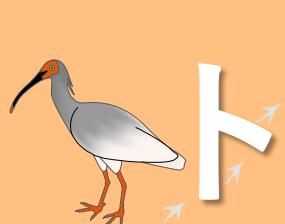
2月6日 第9回分散飼育地連絡会議開催（予定）

2月9日 第23回トキ野生復帰検討会開催（予定）

2月21日 トキの水辺づくり協議会 令和4年度通常総会開催（予定）

- トキの
みがた
- ①トキに近づかず、やさしく静かに見守りましょう。
 - ②地域に迷惑をかけないようにしましょう。農地へ無断ではいらないようにしましょう。
 - ③車から降りずに観察しましょう。（ただし、通行の妨げにならないようにしましょう）
 - ④大きな音や光を出さないようにしましょう。
 - ⑤繁殖期（2月～6月）は、巣に近付かないようにしましょう。





トキかわら版

環境省 佐渡自然保護官事務所
Ministry of the Environment TEL : 0259-22-3372

令和5年3月1日・第126号

まだまだ寒い佐渡ですが、あちらこちらの林からトキのオスとメスが鳴き合う声が聞こえ始め、忙しくも嬉しい繁殖期の始まりです。

佐渡島内のトキの動き（2023年2月）

2月27日（月）にモニタリングチームが今期初の「枝運び」を確認しました。枝を運んでいるのが確認されたのはNo.385。385と258のペアは一昨年から2年連続で繁殖を成功させている期待のペアです。385/258ペアの今後の動きに注目です。



枝運びとは

造巣行動の1つです。トキは木の枝で巣の枠組みを作つてから草などの巣材を敷きつめて巣をつくるため、造巣行動は枝運びから始まり、続いて草運びが始まります。

トキの翼開長（約140cm）を超える長さの枝を運ぶこともあります。営巣林内は枝をくわえたトキが飛翔できる空間があることが重要です。



【枝運びの様子】

トピック～子育て上手なペアは長続きする？～

トキは一夫一妻制で年1回繁殖します。ペアは年によって変わることがありますが、繁殖成功したペアの組替えは稀です。過去に68/78（通称：ろくはちななはち）という子育て上手なペアがいましたが、このペアは2014年～2017年の間に合計13羽のヒナを巣立させました。今年も過年度に繁殖成功したペアの動向も追っていきます。



68/78と幼鳥

トピック～繁殖期の野生下トキのモニタリング～

野生下のトキのモニタリングは環境省、国指定鳥獣保護区管理員、環境省請負業者、新潟大学、一定の知見・技術を有する市民ボランティアからなる「トキモニタリングチーム」が主体となってほぼ毎日実施しています。

繁殖期のモニタリングは繁殖行動の観察から始まり、本格的な繁殖期であるこれから季節は「枝運び」「草運び」などの観察によって巣の場所を特定し、ペアを識別します。その後、60～70ペア程度を目標とした繁殖状況の調査及びヒナ（18～24日齢程度）に対する足環装着（年30羽程度）を実施します。

今はこの段階！

繁殖行動観察



相互羽づくり

営巣場所特定



枝運び

繁殖状況確認



抱卵

ヒナの足環装着



装着作業



擬交尾

2月～3月にペアになり
そうな個体や繁殖行動
を観察



草運び

4月にかけては巣材を
運んでいるトキを観察
して営巣場所を探す



ふ化



足環を着けたヒナ

4月からは、抱卵・ふ化
・ヒナの巣立ちなどを定期的に確認

18～24日齢程度に達したヒナに足環を装着

トキの目撃情報はこちらまで！

0120-980-551

トキ目撃情報フリーダイヤル

0259-22-3372

佐渡自然保護官事務所



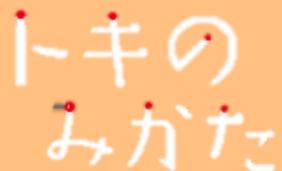
トキ目撃情報入力フォーム

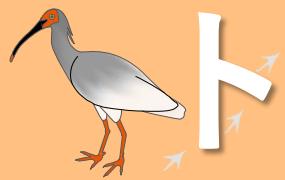
トキ関連ニュース

3月4日 フォーラム「江の設置・ふゆみずたんぼのそこんところ」開催（予定）

3月7日 第28回放鳥個体の順化訓練開始（予定）

- ①トキに近づかず、やさしく静かに見守りましょう。
- ②地域に迷惑をかけないようにしましょう。農地へ無断ではいらないようにしましょう。
- ③車から降りずに観察しましょう。（ただし、通行の妨げにならないようにしましょう）
- ④大きな音や光を出さないようにしましょう。
- ⑤繁殖期（2月～6月）は、巣に近付かないようにしましょう。





トキかわら版

環境省 佐渡自然保護官事務所
Ministry of the Environment TEL : 0259-22-3372

令和5年4月3日・第127号

各地で桜が咲き始め、春の空気が感じられる季節となりました。佐渡では、トキたちが巣材となる枝を運んだり、せっせと巣を造る様子が観察されています。

佐渡島内のトキの動き（2023年3月）



今期初の巣・抱卵を確認

3月17日に新穂地区でNo.385/258ペアの今期初の巣が確認されました。このペアは昨年も同じ場所で巣を築き、2羽のヒナを巣立たせました。

また、3月24日には相川地区でA28/未識別ペアの今期初の抱卵が確認されました。トキの抱卵期間は約1ヶ月。ヒナの誕生が楽しみですね！

トキの抱卵

トキは雌雄が交代で抱卵します。正常な抱卵行動であれば、まれに立ち上がりながら、ほぼ24時間抱卵を継続します。産卵後しばらく抱卵しないペアや断続的に抱卵するペアなど、抱卵行動は個体差が大きいことが分かっています。



トピック～繁殖中のトキがいる林には近づかないで～

近年はデジタルカメラの性能が向上し、誰でも手軽に野鳥の撮影ができるようになってきました。一方で、野鳥の撮影や観察のための注視は対象となる野鳥に対して、大きなプレッシャーを与えていたりする可能性があります。特に繁殖期は繁殖成功などに悪影響を及ぼすことが知られており、トキも例外ではありません。

近年の野生下のトキの繁殖成功率は2割程度であり、1ペア1ペアの繁殖成功が今後のトキ野生復帰の命運を握っています。繁殖期はトキの巣を見つけても近づかず、温かく見守ってください。



トピック～第28回放鳥に向けた順化訓練開始～

3月7日より第28回放鳥に向けた順化訓練を開始しました。野生復帰ステーションの順化ケージにて、飛翔や採餌などの能力を身につける訓練を約3か月行った後、放鳥となります。放鳥は6月上旬頃を予定しています。



トピック～繁殖期の野生下トキのモニタリング～

早いペアでは抱卵を開始しました。この時期は営巣場所を探しつつ、トキの繁殖状況も追っていきます。

繁殖行動観察



2月～3月にペアになり
そうな個体や繁殖行動
を観察

営巣場所特定



4月にかけては巣材を
運んでいるトキを観察
して営巣場所を探す

繁殖状況確認



4月からは、抱卵・ふ化
・ヒナの巣立ちなどを定期的に確認

ヒナの足環装着



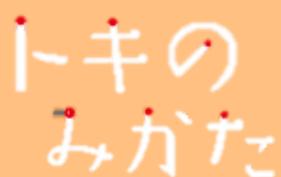
18～24日齢程度に達したヒナに足環を装着



佐渡自然保護官事務所からのお知らせ

4月1日をもちまして、2年間トキかわら版を担当していた自然保護官の西村健汰が異動となりました。いつもトキかわら版をお読みいただき、本当にありがとうございました。5月号からは、後任の小竹佳穂こたけ かほが担当いたします。今後も、トキかわら版をよろしくお願ひいたします。

- ①トキに近づかず、やさしく静かに見守りましょう。
- ②地域に迷惑をかけないようにしましょう。農地へ無断ではいらないようにしましょう。
- ③車から降りずに観察しましょう。（ただし、通行の妨げにならないようにしましょう）
- ④大きな音や光を出さないようにしましょう。
- ⑤繁殖期（2月～6月）は、巣に近付かないようにしましょう。





佐渡では田植えに向けて田に水が張られ、まだ冠雪も見られる大佐渡山地が水面に姿を映しています。野生下のトキには今年も待望のヒナが誕生！今後のヒナの成長に注目です。



佐渡島内のトキの動き（2023年4月）



野生下でヒナ誕生！12年連続



4月24日にNo.209/A26ペア（両津地区）について、今期最初にふ化したヒナ2羽を確認しました。野生下でのヒナ誕生は12年連続となります。

No.209/A26ペアは2017年から毎年確認されており、これまで多くの幼鳥を巣立たせています。子育て上手のベテランペアに今年も期待が高まります。

また、翌25日には、8年連続となる野生下で誕生したトキ同士のペアからのヒナ誕生も確認されました。

本州トキ情報（新潟県内）

新潟県内において相次いでトキが確認されています。4月14日（金）16時40分頃に新潟市内で、4月20日（木）8時00分頃に柏崎市内で、それぞれトキ1羽が確認されています。また、4月11日（火）にもトキとみられる鳥の目撃情報が寄せられています。いずれも個体識別できておりません、本州で新たに確認された個体と特定することはできていません。



トキの目撃情報をお寄せください！

皆様からの目撃情報が、トキの最新の状況を把握する重要な手がかりになります。佐渡島内の他、本州各地でトキを見かけられましたら、電話やHPからぜひご連絡ください。



お電話で

0120-980-551



インターネットで

トキ目撃情報



トピック 人にあげたら違法！？トキの羽と法律

佐渡島ではトキの羽が落ちているのを見かけることがあります。朱鷺色の美しい羽ですが、これを拾って他の人に渡したり、反対に人からもらったりする行為は「種の保存法」違反になります。



種の保存法とは？

法律違反！？いったいどういうこと？

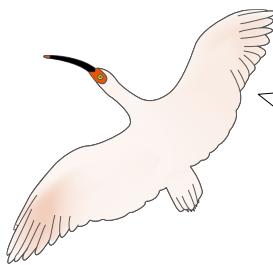
正式には「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律」といい、希少な野生生物を守るために法律です。トキはこの法律に基づいて国内希少野生動植物種に指定されており、以下の行為は原則禁止されています。

☒ 生きているトキを 捕まえる、傷つける

☒ 生きているトキ、剥製、標本、羽、羽毛製品を
あげる・売る・貸す または もらう・買う・借りる

これらに違反した場合…

5年以下の懲役または500万円以下の罰金 が科されます。



無料でもあげたらダメ！もらった人も違法になってしまいます。
自分で持っているのは大丈夫だよ！

◆羽だけでなく、トキの死体を発見したら

環境省で現場の状況確認と回収を行っています。感染症等の可能性もあるため、個人で回収せず、環境省までご連絡ください。



佐渡自然保護官事務所からのお知らせ



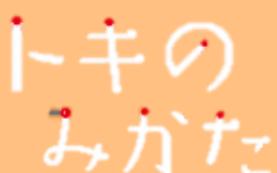
4月より2名の職員が着任しました。新体制でトキの野生復帰に向けて尽力してまいりますので、引き続きご協力のほどよろしくお願いします！

● 自然保護官 小竹 佳穂（こたけ かほ）

4月に初めて佐渡島を訪れ、あっという間に豊かで美しい自然に魅了されてしまいました。まだまだ未熟者ですが、全て一から学びながら、トキの野生復帰に少しでも多く貢献できるよう頑張ります。

● 希少種保護増殖等専門員 向井 喜果（むかい はるか）

佐渡で暮らしてみて、美味しいご飯、優しい人々、豊かな自然とたくさんの魅力を感じています。その魅力の一つでもある美しいトキの野生復帰を手助けできるように、皆さんと一緒に頑張っていきます。どうぞよろしくお願いします！



- ①トキに近づかず、やさしく静かに見守りましょう。
- ②地域に迷惑をかけないようにしましょう。農地へ無断ではいらないようにしましょう。
- ③車から降りずに観察しましょう。（ただし、通行の妨げにならないようにしましょう）
- ④大きな音や光を出さないようにしましょう。
- ⑤繁殖期（2月～6月）は、巣に近付かないようにしましょう。



トビシマカンゾウやイワユリが咲き誇る季節になりました。今年も野生下で生まれたトキのヒナの巣立ちが確認されました。また、第28回目となるトキの放鳥を開始しました。



佐渡島内のトキの動き（2023年5月）



野生下で今期初のヒナ巣立ち 12年連続



野生下生まれトキ同士のペア（両津地区）

5月29日、野生下で生まれたヒナ4羽の巣立ちを確認しました。巣立ちしたのはNo.209/A26ペア（両津地区）、足環のない野生下生まれトキ同士のペア（両津地区）、No.385/No.258ペア（新穂地区）のヒナで、いずれのヒナにも5月中旬に個体識別のための足環を装着しました。野生下での巣立ちは12年連続、また野生下で誕生したトキ同士のペアからの巣立ちは8年連続となります。

第28回放鳥を開始しました！

5月30日、野生復帰ステーション順化ケージより、ソフトリリース方式でトキ13羽の放鳥を開始しました。5月31日時点で9羽が飛翔しており、順化ケージ内には4羽が残っています。

飛翔したうち1羽（No.495）は、順化ケージから出た後、約45分間飛び続ける様子が観察されており、訓練の約3か月で身につけた飛翔力を大空で存分に發揮しました。



トピック ヒナへの足環装着

環境省では、野生下で生まれたトキのヒナの一部に足環を装着しています。モニタリングを行う際にはこの足環から個体を識別しており、個体毎の行動を把握するために重要な役割を果たしています。

装着作業は巣にたどり着くところから始まります。木を登って巣に到達すると、ヒナをカゴに入れてロープで地上に降ろします。その後、獣医師による身体測定、足環装着を行い、ヒナを樹上の巣に戻したら作業完了です。

足環装着作業の流れ



①巣まで登る



②身体測定・足環装着



③巣に戻す

ヒナを巣から出しても大丈夫なの？親鳥は戻ってくるの？



作業は、ヒナの日齢（ふ化してからの日数）を見極め、ヒナへの影響が最小限と考えられるタイミングで作業を実施しています。作業後も親鳥が巣に戻るまで観察する他、ヒナに影響が生じていないかモニタリングを継続しています。

ヒナはもちろん、その親鳥や周囲のトキへの影響を最小限にするため、地域の皆様にご理解いただきながら、関係機関と連携して作業を行っています。

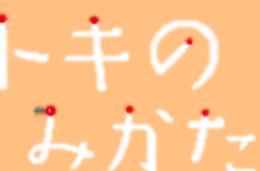


佐渡自然保護官事務所からのお知らせ

2019年4月より佐渡自然保護官事務所で勤務しておりました首席自然保護官の澤栗が、6月1日をもちまして福島地方環境事務所に異動となりました。

● 澤栗よりごあいさつ

トキの野生復帰に携わって4年あまりですが、異動のため佐渡島を離れることになりました。島の皆様には本当にお世話になりました、ありがとうございました。人と自然が共生する持続的な地域づくりが実現し、トキが舞う豊かな島が将来の世代に引き継がれていくことを願っています。



- ①トキに近づかず、やさしく静かに見守りましょう。
- ②地域に迷惑をかけないようにしましょう。農地へ無断ではいらないようにしましょう。
- ③車から降りずに観察しましょう。（ただし、通行の妨げにならないようにしましょう）
- ④大きな音や光を出さないようにしましょう。
- ⑤繁殖期（2月～6月）は、巣に近付かないようにしましょう。



水辺にホタルの飛び交う季節です。水田には第28回放鳥個体と今年生まれの幼鳥が少しづつ姿を現しています。

佐渡島内のトキの動き（2023年6月）



野生下トキ 2023年の繁殖期終了・繁殖結果（速報値）



6月23日、モニタリングチームが順調な生育を確認していたヒナのうち最後の1羽の巣立ちが確認され、今期にモニタリング対象とした115組のペアの繁殖活動は終了したものと判断しました。

野生下では16組から計34羽のトキの巣立ちを確認しました。このうち、野生下で誕生したトキ同士のペア11組から計23羽が巣立ちました。

第28回放鳥が終了しました

5月30日～6月1日に第28回放鳥を実施し、計13羽のトキを野生復帰ステーション順化ケージよりソフトリリース方式で放鳥しました。

放鳥中には、初日に放鳥されたNo.498が放鳥2,3日目にも順化ケージ周辺に訪れ、放鳥口周辺でドジョウを食べている様子が観察されました。そんなNo.498の姿に誘われるよう順化ケージの外に歩み出し、そこから飛び立っていく個体も見られました。放鳥された個体たちは、現在では平野部の水田等で採餌している様子が観察されています。



トキ関連ニュース

5月30日～6月1日 第28回放鳥を行いました

6月4日 花角新潟県知事が順化ケージを視察されました

6月14日 行谷小学校の水辺のいきものしらべに参加しました

6月26日 衰弱した野生下生まれの幼鳥1羽を保護しました

6月29日 第29回放鳥に向けた順化訓練を開始しました



第29回放鳥に向けた訓練開始！

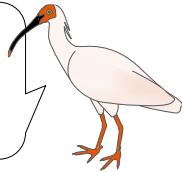
9月下旬に実施する第29回放鳥に向けて、6月29日に15羽のトキの順化訓練を開始しました。放鳥候補個体となるトキは、個体識別のために足環の装着と、**アニマルマーカー**による羽の着色を行い、午前10時過ぎに順化ケージへ放たれました。訓練個体はこれから約3ヶ月間、飛翔力や餌を捕る方法など野生で生きていくために必要な能力を身につけていきます。



アニマルマーカーとは？

化粧品や医薬品にも使用することのできる色素でできたマーカー。品質やその試験方法などが厳密に規定されており、動物に対して有害な物質を一切含みません。

水浴びをしても色は落ちないよ！
羽が生え換わる（＝換羽）と、トキ色の羽に戻るよ



今回は、順化ケージ内にある半個室状態の小スペースに訓練個体を放し、そこから自分でメインの広いスペースに移動するのを待つという新たなリリース方法を採用しました。これにより、広い順化ケージに慣れない訓練個体が、訓練開始時に上手く飛べずに壁などにぶつかり怪我するリスクを低減させることを目的としています。小スペース内に放された訓練個体たちは、その日のうちに全羽広いスペースに出て行く様子が確認されました。

今後も試行錯誤し、トキにとってより良い方法を模索していきます。



移送箱から小スペース内に放鳥する様子



小スペース（右側）に滞留する訓練個体
左側が広いスペース



佐渡自然保護官事務所からのお知らせ

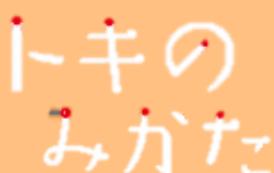
6月より新しい首席自然保護官に篠崎 さえか（しのざき さえか）が着任しました。

●篠崎より着任のごあいさつ

地域の皆様と協力しながら、トキの野生復帰を進めていくとともに、人と自然が共生する持続的な地域づくりにも携わっていきたいと考えています。これからよろしくお願ひします。



- ①トキに近づかず、やさしく静かに見守りましょう。
- ②地域に迷惑をかけないようにしましょう。農地へ無断ではいらないようにしましょう。
- ③車から降りずに観察しましょう。（ただし、通行の妨げにならないようにしましょう）
- ④大きな音や光を出さないようにしましょう。
- ⑤繁殖期（2月～6月）は、巣に近付かないようにしましょう。





セミの合唱が賑やかな季節になりました。島内各所で夏祭りが行われていますが、賑やかな夜をトキはどんな思いで見つめているのでしょうか。

佐渡島内のトキの動き（2023年7月）



畠に下りた足環の無い幼鳥

今期の繁殖期が終了し、ペアで行動していた個体が群れで行動する様子が見られるようになりました。今年生まれた幼鳥も生まれた巣のある地域を離れ、それぞれ群れに合流して過ごしています。

また、6月末に真野地区で保護された足環の無い幼鳥は、衰弱と脚に異常が見られたため野生復帰ステーションで治療を続けていましたが、現在は回復し野生復帰ステーションにて今年生まれた幼鳥とその両親が暮らすケージで元気に過ごしています。



第29回放鳥候補個体 順調に訓練中！

当初はうまく飛べず、旋回しきれずにケージ内に張られたネットに衝突する姿も見られた訓練個体たちですが、訓練開始から約1ヶ月が経過し、徐々に距離感や飛び方を掴み、今では上手に旋回して止まり木に止まることができるようになりました。



人工の止まり木に集まる訓練個体

トピック ~道路のトキにご用心~

普段は水田や畠で採餌していることが多いトキですが、農道や道路に下りることもあります。一般道に降り立つこともあります、特に今の季節、稻の背丈が伸びて水田に入れない夏場には、農道で餌を採る姿が多く見られます。

トキだけでなく、夏休みに入り交通量が増える時期でもあります。道路を走行する際には交通ルールを守り、人にもトキにも優しい運転を心がけていただくようお願いします。

もし怪我をして飛べないトキやトキの死体を発見した場合は、環境省佐渡自然保護官事務所（0259-22-3372）までご連絡ください。



道路を横断するトキ



農道で採餌するトキ

トピック ~トキの暑さ対策 防ごう！熱中症~

梅雨が明け、いよいよ夏本番です。猛暑日が続いているが、トキはこの暑さをどうしのいでいるのでしょうか。

鳥は羽毛が体表面を覆っているので、寒さに強い一方で暑さには弱いのが一般的で、トキも暑いのは苦手です。そのため、日中の気温が高い時間帯は樹上の木陰で休んでいる姿が多く見られます。直射日光を避けるとともに、活動量を抑えて体温が上がりないようにしているのです。また人間は暑いと汗をかき、その気化熱によって体温を下げていますが、鳥は汗腺がないため汗をかきません。その代わりに、羽毛の無い顔や脚から熱を放出したり、くちばしを開いて「ハアハア」と呼気で熱を発散したりすることで体温調節をしています。



木陰で休憩



くちばしを開けたトキ



水分補給中

体温調節ができず、身体に熱がこもった状態が **熱中症** です。身体機能に様々な悪影響を及ぼし、命に関わる場合もあります。熱中症は誰でもなる可能性がある一方、正しい知識と行動で予防することができます。



- ◇気温の高い時間帯に長時間の屋外作業は避ける
- ◇帽子や日傘、冷房機器などを適切に活用する
- ◇こまめに水分・塩分を補給する

詳しい情報はウェブサイトで

熱中症予防情報サイト



トキ関連ニュース

7月6日 行谷小学校で出前授業を行いました

7月11日 人・トキの共生の島づくり協議会総会
に出席しました

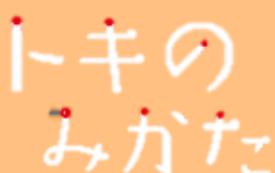
7月16日 朱鷺と暮らす郷づくり推進フォーラム
に出席しました

7月19日 新潟・福島・山形の3県知事が野生復帰
ステーション観察棟を視察されました

7月27,28,31日 行谷小学校の児童がトキの森公園でトキの解説活動を行いました



行谷小学校での出前授業



- ①トキに近づかず、やさしく静かに見守りましょう。
- ②地域に迷惑をかけないようにしましょう。農地へ無断ではいらないようにしましょう。
- ③車から降りずに観察しましょう。（ただし、通行の妨げにならないようにしましょう）
- ④大きな音や光を出さないようにしましょう。
- ⑤繁殖期（2月～6月）は、巣に近付かないようにしましょう。





トキかわら版



環境省
Ministry of the Environment

佐渡自然保護官事務所
TEL : 0259-22-3372

令和5年9月1日・第132号

残暑が厳しい日々ですが、今年の夏は帰省や観光で多くの方が佐渡に来島されていました。訪れた皆さんに野生のトキの姿を見ていただけたら嬉しいです。

佐渡島内のトキの動き（2023年8月）



換羽中でまだら模様のトキ

8月から10月にかけての約2か月間は年に一度の換羽の季節です。徐々に黒い生殖羽が抜けて新たな羽に生え換わる今の時期には、背中がまだら模様のトキも見ることができます。また、9月になるとトキは1年間で最大規模の群れを形成します。現在は最大20羽程度のトキが同じ餌場で採餌し、80羽程度が同じねぐらを利用する様子が観察されています。



第29回放鳥候補個体 訓練は最終段階へ

放鳥まで残り約1か月となり、訓練も最終段階に入りました。運搬車や軽トラック、乗用車の接近訓練では、当初は見慣れない物体に驚いて飛翔する個体も見られましたが、とまり木に止まった後は落ち着いてこちらの様子を伺っていました。9月からは放鳥（ソフトリリース）に向けた放鳥口の開放訓練を行います。



順化ケージに接近する軽トラック

本州でのトキの動き

8月初旬に長岡市でトキ2羽の飛来が確認されました。いずれも足環の着いていない野外生まれで、羽色変化が見られないため昨年生まれの若鳥と推定しています。野外生まれのトキ2羽が本州で一緒にいるところを確認されるのは放鳥以後初めてのことです。この他に新潟市や上越市、妙高市からも度々目撃情報が届いています。

トキへの接近や長時間の観察・撮影は、トキの採餌や休息を妨げることにつながります。もしも皆さんの住む町にトキがやってきたら、トキがその場所に安心して留まっているよう、遠くから静かに見守ってあげてください。また、皆さんの町でトキを見かけたら、「[目撃情報入力フォーム](#)」▶▶▶より情報をお寄せください。



トキがやって来た！そんなときは



トキの
みかた

やさしい見方で
あなたもトキの味方に

お知らせ ~トキの写真展を開催します~

佐渡市にある交流センター 白雲台とトキの森公園の2か所において、トキの放鳥開始から15周年を記念した写真展を開催します。野生下のトキ観察時のマナー や方法に関する展示も行います。皆さまのお越しを心よりお待ちしております！

◆トキ放鳥15周年記念写真展◆ 「モニタリングチームが見つめるトキの姿」

2008年に実施した第1回放鳥から15年。初放鳥の瞬間から現在に至るまで野生下のトキを見守り続けるモニタリングチームのメンバーが撮影した、珠玉のトキ写真23点を展示します。

日時：9月4日（月）～9月27日（水）9:00～17:00

場所：交流センター 白雲台



◆トキ放鳥15周年記念写真展◆ 「キンちゃん没後20年とトキ放鳥のあゆみ」

日本生まれ最後のトキ「キン」が、今年没後20年を迎えます。日本のトキ飼育における研究・技術向上に多大なる貢献をしてくれた「キン」を、当時の貴重な写真とともに紹介します。また、これまでに実施したトキ放鳥時の写真を展示します。訓練を経て、大空へ飛び立つ放鳥個体の様子をぜひご覧ください。

日時：9月15日（金）～11月30日（木）

8:30～16:30

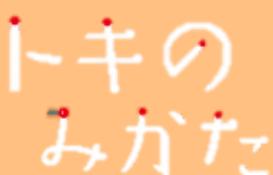
場所：トキの森公園

会場の詳細は右の図をご参照ください▶



トキ関連ニュース

- 8月17日 佐渡Kids生きもの調査隊の子どもたちが
野生復帰ステーションを見学しました
- 8月24日 石川県農業農村整備事業推進協議会の皆さまが
野生復帰ステーションを視察しました
- 9月上旬 トキのねぐら出一斉カウント調査を実施予定
です
- 9月下旬 第29回放鳥（ハードリリース）を実施予定です



- ①トキに近づかず、やさしく静かに見守りましょう。
- ②地域に迷惑をかけないようにしましょう。農地へ無断ではいらないようにしましょう。
- ③車から降りずに観察しましょう。（ただし、通行の妨げにならないようにしましょう）
- ④大きな音や光を出さないようにしましょう。
- ⑤繁殖期（2月～6月）は、巣に近付かないようにしましょう。





トキかわら版

環境省 球環境省 佐渡自然保護官事務所
Ministry of the Environment TEL : 0259-22-3372

令和5年10月2日・第133号

佐渡島では徐々に残暑も和らぎ、爽やかな秋風が吹き抜ける日々です。稻刈りが最盛期を迎え、刈田には待ってましたとばかりにトキやカラスが集まっています。

佐渡島内のトキの動き（2023年9月）



第29回放鳥 ハードリリースを実施しました



放鳥者に見送られ、放鳥箱から飛翔するトキ



放鳥を見守る赤玉地区の方々

9月29日（金）に、佐渡市赤玉地区の棚田にて10羽のトキをハードリリース方式で放鳥しました。赤玉地区では、地域全体で環境保全型農業やビオトープ整備といった取組が行われています。放鳥当日は24名の地域の方々が見守る中、約3か月の順化訓練を終えたトキが放鳥箱から大空へ飛び立って行きました。

10月5日（木）からは、野生復帰ステーション順化ケージにてソフトリリース方式による放鳥を開始予定です。

トキのねぐら出一斉カウント調査を実施しました

9月7日（木）～9日（土）の3日間で、佐渡島内のトキの生息個体数を調べる「ねぐら出一斉カウント調査」を実施しました。早朝に佐渡島内59箇所のねぐらを調査した結果、28箇所のねぐらで合計475羽のトキを確認しました。今回の調査は島内外から来てくださったボランティアの方々を含め、延べ102名で実施しました。朝早くからご協力いただきありがとうございました！

トキ関連ニュース

9月5日 斎藤知事（兵庫県）、関貴市長（豊岡市長）、花角知事（新潟県）、渡辺市長（佐渡市）が野生復帰ステーションを訪問されました。

9月26日 資料集「トキと共生する里地づくり ～佐渡島の取組を例として～」を公開しました。

9月29日 環境省関東地方環境事務所長がトキ関連施設を訪問し、またハードリリースを観覧しました。



ハードリリース放鳥場所での記念写真

トキ放鳥15周年～第1回放鳥からの歩み～

2008年9月25日に第1回目の放鳥を実施してから、今年でトキ放鳥15周年を迎えます。これまでに計28回、延べ475羽のトキを放鳥しました（2023年9月1日時点）。野生絶滅したトキの再導入という前例の無い取組への挑戦は、一筋縄ではいきませんでした。それでも試行錯誤を重ねながら、今日まで放鳥を続けることができているのは、佐渡島の皆様のご理解とご支援、またトキが再び大空を舞う日の到来を信じ続けた関係者の皆様のご尽力の賜物です。

今、トキ野生復帰は新たな段階に差し掛かっています。佐渡島では引き続き安定的な生息状況の維持を目指して取組を続けながら、新たに本州での定着を目指し機関との協議・連携と検討を進めています。佐渡島に続き、次は日本中の空で朱鷺色の羽を見る能够性がある未来を見据え、これからも取組を進めてまいります。



3か月間
過ごした
場所から、
自らの翼
で大空へ

放鳥10周年記念
式典 放鳥式

2008年 第1回放鳥 (新穂)

約1800人の觀
衆が見守る中、
10羽のトキが飛
び立ちました



◆トキ放鳥15周年記念写真展◆ 「トキのすがた」

本州から佐渡島への玄関口である佐渡汽船新潟港ターミナルでトキの写真展を開催中です。野生のトキの写真と、トキの観察マナーを学べるポスター等を展示しています。新潟港への船旅前に、ぜひご覧ください！

日程：9月26日（火）～11月30日（木）

場所：佐渡汽船新潟港ターミナル 3階待合室

トキの森公園
でも開催中！



トキの
みかた

- ①トキに近づかず、やさしく静かに見守りましょう。
- ②地域に迷惑をかけないようにしましょう。農地へ無断ではいらないようにしましょう。
- ③車から降りずに観察しましょう。（ただし、通行の妨げにならないようにしましょう）
- ④大きな音や光を出さないようにしましょう。
- ⑤繁殖期（2月～6月）は、巣に近付かないようにしましょう。





トキかわら版



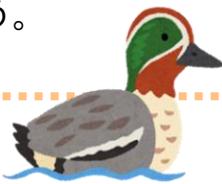
環境省
Ministry of the Environment

佐渡自然保護官事務所
TEL : 0259-22-3372

令和5年11月1日・第134号

佐渡島には冬鳥が續々と飛来し、湖や溜め池、水田が賑やかになってきました。この時期に心配なのがインフルエンザ。人も鳥も、十分注意していきましょう。

佐渡島内のトキの動き（2023年10月）



第29回放鳥が終了しました！



10月6日に1羽で飛び立ったNo.521

10月5日～7日に野生復帰ステーション順化ケージよりソフトリリース方式で5羽のトキを放鳥し、第29回放鳥が終了しました。風雨の影響もあってか、初日の5日は1羽も飛び立ちませんでしたが、6日には1羽、7日には4羽が揃って野外へ飛び立ちました。今回の放鳥では、9月29日に実施したハードリリースと合わせて15羽のトキを放鳥しました。放鳥されたトキは、放鳥地である赤玉地区や、国仲平野の圃場で行動する様子が観察されています。

環境省では、今回新たに放鳥された個体の行方を追っています。マーカーで羽に色を塗られた放鳥トキを発見したら、トキ目撃情報フリーダイヤル (0120-980-551) またはトキの目撃情報入力フォームへ情報を寄せください。



10月7日に飛び立ったNo.516（右）とNo.519（左）

野生復帰に向けた取組の資料集を公開しました

環境省・新潟県・佐渡市の3者で、これまでのトキ野生復帰のための生息環境保全・再生や社会環境整備の取組についてとりまとめた資料集「トキと共生する里地づくり－佐渡島の取組を例として－」を公開しました。これまでに明らかになったトキの生態や保護増殖事業の実施内容をまとめた他、佐渡島内で活動する団体や大学、行政など多様な主体が実施してきた取組事例を掲載しています。

資料集は環境省関東地方環境事務所のホームページ（[tokitokyouseisurusatochi.pdf \(env.go.jp\)](http://tokitokyouseisurusatochi.pdf (env.go.jp))）でご覧いただけます。

トキと共生する里地づくり

－佐渡島の取組を例として－



環
境
新
佐
潟
渡
県
市

トキと共生する里地づくりネットワーク協議会 開催

10月23日に第2回トキと共生する里地づくりネットワーク協議会が、石川県羽咋市で開催されました。会議では「トキと共生する里地づくり取組地域」の生息環境や社会環境の整備に向けた取組状況の共有の他、佐渡トキ保護センターでのトキ放鳥に向けた訓練の紹介や、トキの本州での定着に向けた検討状況などの報告及び意見交換がなされました。



トキと共生する里地づくり取組地域とは？

本州でのトキ定着を目標に、将来的にトキが生息できるよう環境整備の取組を進める地域として、令和4年に選定された以下の地域。

石川県と能登の9市町、島根県出雲市、宮城県登米市、秋田県にかほ市、コウノトリ・トキの舞う関東自治体フォーラム（関東地方の18市町）



野生復帰ステーションの一般公開を実施しました



順化ケージ内ツアーの様子

10月28日に野生復帰ステーションの一般公開を行い、佐渡島内外から22名の方が参加されました。監視カメラのモニターが並ぶ執務室や放鳥前のトキが訓練を行う順化ケージなど、普段は見ることのできない現場の様子を見学していただきました。見学の後にはクイズや工作、モニタリング体験にも挑戦していただき、参加者には楽しみながらトキと野生復帰の取組への理解を深めていただきました。

トキ関連ニュース

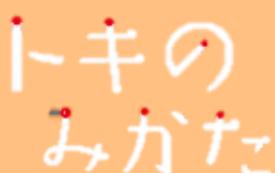
10月18日 分散飼育地と佐渡トキ保護センター間で飼育トキ
～30日 の移送を行いました。

10月19日 トキガイド養成講座にて、トキのモニタリング
と野生復帰について解説しました。

10月26日 • 松澤地球環境審議官が佐渡市内のトキ関連施設
を訪問されました。
• 在新潟中国総領事の崔為磊氏が佐渡市内の
トキ関連施設を訪問されました。



- ①トキに近づかず、やさしく静かに見守りましょう。
- ②地域に迷惑をかけないようにしましょう。農地へ無断ではいらないようにしましょう。
- ③車から降りずに観察しましょう。（ただし、通行の妨げにならないようにしましょう）
- ④大きな音や光を出さないようにしましょう。
- ⑤繁殖期（2月～6月）は、巣に近付かないようにしましょう。





トキかわら版

環境省 Ministry of the Environment 佐渡自然保護官事務所 TEL: 0259-22-3372

令和5年12月1日・第135号

大佐渡山地が雪化粧を始め、冬の訪れを感じる季節になりました。寒空の下でもたくましく生きるトキや野生生物を見て、冬嫌いな自分を奮い立たせています。

佐渡島内のトキの動き（2023年11月）



真野地区の刈田で採餌するトキ3羽

国仲平野を中心に佐渡島内の各所で、1羽から十数羽の群れで餌を探るトキが観察されています。今年生まれの幼鳥も群れに混じって過ごしていますが、オレンジ色だった顔の色も赤くなり、成鳥と見分けるのが難しい程にたくましく育っています。

また、枝渡しや擬交尾など、ペアをつくる際に行う求愛行動も徐々に見られるようになってきました。本格的な繁殖期はもう少し先ですが、トキにとっては相手を見つける大切な時期が始まっているようです。



新規放鳥個体の死亡が確認されました

11月13日（月）に、第29回放鳥にて放鳥したNo.511が佐和田地区の水田で死亡しているのが確認されました。なお、鳥インフルエンザの検査結果は陰性でした。No.511は、10月7日（土）にソフトリリース方式で放鳥され、数日前まで同地区で採餌している様子が観察されていました。

ICEBA2023が開催されました

11月18、19日に、第6回生物の多様性を育む農業国際会議（ICEBA）が開催されました。

「『トキと共生する佐渡の里山』から始まる新・生物多様性農業」をテーマとした今回の会議では、農業や生物多様性、脱炭素、SDGs等に精通した各分野の専門家による講演やパネルディスカッションが2日間に渡って行われました。環境省からは関東地方環境事務所の松本所長が登壇し、「脱炭素×生物多様性保全を目指して」をテーマに、国内の脱炭素の取組や、脱炭素と生物多様性の関係について講演を行いました。



1日目の様子（於あいぽーと佐渡）

生物の多様性を育む農業国際会議（ICEBA）とは？

生物多様性を基盤とした地域循環型の農業技術を確立し、それを国内外に広めることを目標とした会議。2010年に初めて開催され、佐渡市での開催は2回目。

洋洋の死亡が確認されました

11月23日（木）に佐渡トキ保護センターで飼育していた「洋洋（ヤンヤン）」の死亡が確認されました。外傷や病気は見つからず、衰弱によるものと推定しています。今年6月頃から正常に歩行ができない様子であったものの、食欲は十分にあり自力で採餌できていました。しかし、11月半ばから立ち上がりにくくなり、自分で餌を探ることができなくなつたため、獣医師の手で給餌と治療を行っていました。



洋洋（2022年撮影）



洋洋は、1996年に中国で生まれたメスのトキで、1999年1月30日にオスの友友（ヨウヨウ）とともに日本へやってきました。そして同年に洋洋が産んだ卵から日本初の人工孵化が成功し、優優（ユウユウ）が誕生しました。その後、友友とのペアを解消するまでの10年間で、29羽の子が巣立ち、更にその子たちから400羽を超える孫世代が育ちました。これまでに野外へ放鳥されたトキは、全て洋洋の子孫にあたります。

佐渡島の空には洋洋の遺伝子を受け継いだ多くのトキが、力強く羽ばたいています。日本におけるトキ野生復帰の礎を築いてくれた洋洋に、心から感謝します。

（上記の写真は佐渡トキ保護センター撮影）

トキ関連ニュース

11月9日 分散飼育地等連絡会議が開催されました。

11月15日 イオンリテールワーカーズユニオンの皆さまが野生復帰ステーションを見学しました。

新穂小学校の児童が野生復帰ステーションを見学しました。

11月16日 七浦小学校の児童が野生復帰ステーションを見学しました。

11月21日 人とトキの共生する島づくり協議会 生息環境部会及び観光・普及啓発部会が開催されました。



順化ケージを見学する七浦小の児童たち

- ①トキに近づかず、やさしく静かに見守りましょう。
- ②地域に迷惑をかけないようにしましょう。農地へ無断ではいらないようにしましょう。
- ③車から降りずに観察しましょう。（ただし、通行の妨げにならないようにしましょう）
- ④大きな音や光を出さないようにしましょう。
- ⑤繁殖期（2月～6月）は、巣に近付かないようにしましょう。

